

## 保健室で見つけたあったかーい話 逆上がり

放課後、保健室から中庭を見ていると、一生懸命逆上がりの練習をしているAさんの姿が目に残りました。鉄棒練習台に足をかけて、逆上がりに挑戦していましたが、なかなかうまくできません。私は、保健室から思わず「Aさん、ガンバレ。」と言いました。しばらくすると、近くを通りかかったB先生が、Aさんのそばによって何かアドバイスをしてくれたようです。



するとどうでしょう、見事にできました。保健室から応援していた私も思わず、「良かったね。」と言いながら拍手をしました。

そして、数分後、C先生、D先生もAさんのそばを通りました。今度は練習台も使わずに何回も逆上がりができるようになっていました。それを見た、先生方から「すごい、頑張ったね。」と褒められていました。保健室から見えるAさんの顔は、逆上がりができた喜びでいっぱいでした。

「あきらめないで挑戦すれば、必ずできる」というドラマのようなことが、日々の子どものたちの生活の中であっていることに感動を覚えます。

子どもは社会の宝です。しかし、今では児童虐待のニュースを聞かない日はないと言っていいほど、悲しい事件が後を絶ちません。今月は「児童虐待防止月間」です。そこで、福井大学の子どものこころの発達研究センターの友田先生の文章を引用しながら、親の関わりについて一緒に考えてみたいと思います。

### 子どもの脳をキズつけないために

#### ～親の不適切な関わりで、脳は変形する～

**福井大学 子どものこころの発達研究センター教授・副センター長 友田 明美 引用**

- ・虐待や体罰を受けることで、脳の大事な部分に「傷」がつくということです。つまり、「マルトリートメント（不適切な養育）」が発達段階にある子どもの脳に大きなストレスを与え、実際に変形させていることが明らかになりました。  
マルトリートメント（不適切な養育）には、しつけと称して怒鳴りつけたり、脅したり、暴言をあびせると言った心理的な虐待も含まれます。
- ・マルトリートメント（不適切な養育）によって損傷する脳の部位  
厳しい体罰（前頭葉が縮小） 暴言（視覚野が変形） 親のDVを目撃（視覚野が縮小）
- ・傷ついた脳は、専門家による心理的な治療や心のケアを慎重に時間をかけて行っていく必要があります。（裏面に続く）

## 子どもの脳を健やかに育てるために大切なこと

- ①子どもの脳に及ぼす影響を理解し、体罰・暴言による子育てはしない
- ②大人と子どもは対等な力関係ではないという前提にたつ
- ③親は、爆発寸前のイライラをクールダウンする
- ④親は子どもの気持ちと行動を分けて考え、成長を応援する
- ⑤もし「マルトリートメント（不適切な養育）」を受けた子どもに遭遇した時には、速やかに医療機関と相談する

- ・「強者」である大人が、「弱者」である子どもを怒鳴りつけ、体罰を与えるという行為は、私たち大人が想像するより強い衝撃を与えます。
- ・本来「しつけ」とは、子どもに恐怖を与えることではなく、正しく導くことが目的でなければならないと思うのです。
- ・人間の子どもは生きていくために、大人の「養育」を必要とします。その養育には愛情とぬくもりが必須だと言うのは言わずもがなです。
- ・子どもを健全に育てるためには、親が健全であることが求められます。だからこそ、子育てで困ったとき悩んだときは、自分一人で抱え込まず、周りにSOSを出してほしいです。

## 相談窓口（児童相談所全国共通ダイヤル「189（いちはやく）」）

虐待かと思ったら、お住まいの市町村、児童相談所までご相談ください。

児童相談所全国共通ダイヤル「[189（いちはやく）](tel:189)」へかけると、お住まいの地域の児童相談所につながります。

児童相談所への連絡は、全国共通ダイヤル「189」もしくは下記の一覧の連絡先をご利用下さい。また、相談に関する秘密は守られます。



**あなたの1本のお電話で救われる子どもがいます。  
児童虐待かと思ったらすぐにお電話ください。**

お住まいの地域の児童相談所につながります。

※一部のIP電話からはつながりません。※通話料がかかります。